

令和2年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	大学・学校・地域連携型の学習支援活動のモデル事業
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 准教授 堀 健志
3 学外の連携機関等	(連携機関等名)(担当者職名・氏名等) <ul style="list-style-type: none"> ・上越市立城西中学校 学校長 佐藤 幹夫 ・いちょう食堂の会 会長 金子 光洋 ・南新町町内会 会長 大島 喜七郎 ほか
4 事業活動報告	<p>いちょう食堂の会および上越市立城西中学校と連携しながら、合計16回の学習会を開催した。ただし、3月のうち2回は、本報告書の作成時点(3月15日現在)において実施予定となっているものである。</p> <p>8月 南三世代交流プラザで学習会の開催(1回) 10月 南三世代交流プラザで学習会の開催(2回) 11月 南三世代交流プラザで学習会の開催(4回) 12月 南三世代交流プラザで学習会の開催(3回) 1月 南三世代交流プラザで学習会の開催(1回) 2月 南三世代交流プラザで学習会の開催(2回) 3月 南三世代交流プラザで学習会の開催(3回)</p> <p>今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けた。学生の課外活動の禁止・自粛が大学より指示されたことにより、7月までは事業を開始することができなかった。8月以降も、同様の理由により実施を見送ることがあり、さらには、市内での感染クラスター発生にとともに、自主的な判断にもとづく自粛もあった。また、城西中学校における実施は、同校の判断により、感染防止の観点にもとづいて見送られることとなった。</p> <p>なお、学習会の実施にあたっては、開催前後にアルコールを用いたテーブル等の消毒を行うとともに、例年、行ってきた小学生への菓子類の提供(学生による私費負担)は、学習会の終了後に限定するとともに、会場での飲食の自粛を要請した。</p>
5 本事業で得られた成果	<p>本事業として位置づけられることで学習支援活動を有償化することが可能となり、その結果として、学習会を継続的かつ安定的に開催することが可能になっている。もちろん、必ずしも十分であるとは言えないまでも、城西中学校および南本町小学校学区に居住する、非通塾児童・生徒の学習を支援することができていると評価することができるであろう。このことは、参加する子どもたちにとって、大学生が身近なロールモデルとなる可能性があり、健全育成上のメリットがあるとも考えられる。他方で、この取り組みに参加している学生たちにとっても、子どもたちとの交流を通じてのみならず、コロナ禍の下におけるこの事業のあり方をめぐる地域住民との意見交換を通じて、多様な考えや意見に触れることができおり、教員養成の観点からも豊かな経験がもたらされていると評価できる。</p> <p>さらに、年度末にかけて南本町小学校との連携を深めており、非公式なかたちではあるものの、意見交換・情報交換を進めている。次年度は、この連携をさらに深めて、本事業をより充実させたいと考えている。</p>

7 その他 (成果物等の名称)

【活動写真について】

連携機関が子どもを撮影することに対してかなり慎重な姿勢をとっているため、学習支援活動の様子を撮影していません。